

に交渉は決裂するに至つたのである。

6 相愛會の行動  
相愛會は縣下各支部の應援を受けて爭議團と抗争を續けて、更に三十一日福岡相愛會本部名を以て別紙の聲明書三千枚を關係炭坑鮮人稼働者に配布したのであるが縣當局の警告に依つて遂に爭議加盟者防止の程度に止めて其の他の行動に出でざることになつた。

7 日本國家社會勞動同盟九州鑛夫組合の策動、  
元西部鑛山勞動組合（大衆黨系）幹部にして現在主題の組合長柿崎清太郎氏は日本石炭坑夫組合排撃爭議反對の聲明書（別紙の通）出したので、爭議團側は大いに憤慨し主事宮崎太郎氏は九州鑛夫組合事務所を訪問抗議をなすところがあつた。本件の裏面には炭坑側の策動ありと傳へらる。

### 8 田中幸太郎氏の調停運動

田中幸太郎氏は會社の勞務主任であるが所謂地方の顔役に於て、前記の如く勞資双方の正式會見を斡旋したのであるが、第二回交渉決裂するや其の後を受けて正式調停に乗り出し勞資間を折衝し其の交渉案として、  
一、爭議加盟者中二三四名を解雇す、内五〇名（上三緒炭坑よりの轉坑者）に對しては規定通解雇手當及歸郷旅費を支給す。

二、外に爭議費用として千五百圓を爭議團に支給す。  
三、團員中一九〇名は不都合解雇として規定の解雇手當を支給せざるも草鞋錢として千五百圓支給す。を以て解決すべく奔走し勞資の會見を爲すことゝなつた。

### 第一回會見

九月一日午後六時麻生俱樂部に於て會見。